

## 令和 6 年度第 1 回大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会 議事要旨

|        |                                                                                                                                    |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日時   | 令和 6 年 7 月 5 日（金）午前 10 時～午前 11 時 50 分                                                                                              |
| 開催場所   | 大船渡市役所 議員控室                                                                                                                        |
| 出席者    | 委員 11 名<br>柴山明寛会長、佐藤敬生委員、渡辺信子委員、齊藤賢治委員<br>石橋英委員、鈴木満広委員、佐藤礼委員、佐藤雅俊委員<br>山田宏基委員、金野尚一委員、伊藤真紀子委員<br>事務局<br>防災管理室（松川室長、伊藤次長、佐藤主幹、新沼主事補） |
| 議題（案件） | 1 開 会<br>2 会長あいさつ<br>3 協 議<br>令和 6 年度事業計画（案）について<br>4 その他<br>5 閉 会                                                                 |

### 1 開 会

#### 2 会長あいさつ（柴山会長）

大船渡市では、3 月に祈りのモニュメントの除幕式が行われ、追悼の場が出来上がり、段階を踏んでできている状況にある。

周りの自治体の状況を見ると、陸前高田市の東日本大震災津波伝承館は来場者 100 万人に達した。年間、だいたい 25～30 万人、道の駅まで入れると 50 万人ほどの来訪者がいる。

大船渡市にはなかなか観光客が来ていただけてない、防災学習・伝承というところでも見に来ていただけていないのが課題と感じている。

宮古市では、「なあと」の場所に伝承施設を整備することで、現在、プロポーザル実施段階とのことである。伝承館の整備としては岩手県ではこれが最後になる可能性が高い。

宮城県の仙台市では、まだ先にはなるが 5、6 年後に、国際センターの隣に音楽ホールと一緒に伝承できるような場を設ける計画となっている。

福島県に関しては、そういう話はまだ聞いていないが、浜通りの方で作られる可能性はゼロではないと思う。東日本大震災から 13 年経とうとしているが、まだまだこういう形で伝承をがんばってやっていこうという機運は高いというところをみなさんに知っていただきたい。

能登半島地震においては、発災から半年経つが復興は進んでいない現状がある。

いろんな話を聞くと、公費解体で順番待ちではあるが、家屋の解体が進んでいない状況とのこと。

東日本大震災に比べ復興スピードがかなり遅い。石川県では、今年度中に震災関連資料をアーカイブ化し公開することで進めている。今年 10 月には熊本市で「ぼうさいこくたい」が開催されるなど、各地で防災イベントが行われる。いろんな場を使い

ながら、大船渡の防災学習ネットワークの取組を広げていただければと思う。

全体的に東日本大震災の伝承はまだ続いており、注目度も高い。こうした中、この運営協議会において、大船渡の防災ネットワークを盛り上げ、しっかり後世に伝えていくこと、さらには防災力を高めていくことができればと考えているので、本日は活発な議論をお願いしたい。

### 3 協 議

#### ・令和6年度事業計画（案）について

事務局より、前回会議（R6.2.1開催）の振り返りを行った上で、資料1のとおり説明した。

#### <意見・質疑応答>

##### ○ 柴山会長

情報発信の実績として、4月からX（旧ツイッター）にどのくらい告知したか。

##### → 事務局

発信はまだ数件であるが、前回会議でも柴山会長からご指摘があったことから、何をどういう内容で投稿したか、どういう反応があったかを4月からエクセル表にまとめている。

##### ○ 柴山会長

防災学習ネットワーク関連の情報発信を積極的にやっていただきたい。

おおふなぼーとエントランス内の防災学習コーナーの写真について、関心・興味を惹くような写真、撮り方を工夫するなどしていただきたい。

##### ○ 山田委員

防災学習館における市外からの視察の受入について、今年度実績はあるか。

##### → 事務局

3月末には、学校法人安城学園の教職員や岡崎市防災担当職員、岡崎市消防団長など50人程度の視察受入を行った。7月16日には、相模原市議会の行政視察の受入を予定している。

そのほか、一関、矢巾の老人クラブ等の団体から問い合わせが入っている。

##### ○ 柴山会長

修学旅行の繁忙期は5～6月、9～10月頃である。今現在問い合わせがない状況だと、修学旅行としての利用はないと見込まれるが、修学旅行等の受入についてはどうか。

##### → 事務局

今年度、県内高校に対しDMを送っており、今後もタイミングを見ながら情報提供していきたい。

##### ○ 柴山会長

防災学習館の予約状況は把握しているか。

##### → 事務局

予約状況は随時の確認までは行っていない。

現在の事務流れとして、毎月実績報告を提出する形としている。

今後、予約状況は情報共有していきたい。

○ 佐藤敬生委員

コロナ禍が明け、近隣から関東方面に足が向くようになり、教育旅行客は減少傾向にある。先月、地元高校生の市内での教育旅行の受入を行った。今後、市内の小中学校、高校へ情報提供することで需要が増えていくのではと感じた。

○ 渡辺委員

綾里小学校では、東日本大震災津波伝承館を利用した防災学習を行っている。

滝沢にある小学校においても、宿泊は大船渡だが、防災学習は東日本大震災津波伝承館に行ったと聞いている。

防災学習に気軽に行きたいと思うがバス等の足がないのが課題。バスを借りるにはお金がかかるし、スクールバス利用には年間の利用制限がある。学校行事は年度初めに計画していく必要があり、年度途中での対応は難しい。

→ 事務局

先生方は毎年異動もあり、学校行事も年明けには決まってくると思うので、事務局としても毎年、タイミングを見て施設紹介する機会を作っていきたい。バス利用に関しても検討していく考えである。

○ 柴山会長

学校行事は年末から年始にかけて決まっていくので、そこまでに足を作っていただきたいと思うが、市で所有しているバスはあるのか。市のバスが一番運行しやすく、費用面もバス会社から借りるより安く済むと思うので、柔軟な運用をお願いしたい。

→ 事務局

1 台中型バス（28 人乗り）がある。

綾里小学校 1 学年の人数であれば対応可能であるが、その目的によっては利用できない場合もあるので、バス利用の際は担当課と協議したいと思う。

○ 佐藤礼委員

毎年、大船渡消防署に市内全小学校から社会科見学に来ている。難しいのかもしれないが、こういう機会に防災学習館の見学も一緒にできたら良いと思う。

○ 柴山会長

学校教育の中に組み入れるとなるとマネジメントする人が必要だと思うが、誰が行うのか。

→ 事務局

防災管理室が行うことになるが、今後、さまざまな視点を取り入れながらやっていきたいと考えている。

○ 柴山会長

防災担当が 3 人体制で通常業務の多い中で、こうしたコーディネート業務までできるかどうかしっかり考えていただきたい。良い連携は今後できると思うので、コーディネート業務については、防災担当だけでなく市役所全体で考えていくことだと思っている。できなければ外部に委託するなど、市の中で調整し進めていただきたい。

→ 事務局

日々の業務で手一杯の状況ではあるが、できる限りやれることをやっていく。今年度は観光部署とも随時打合せを行っており、連携した取組につなげていく。

○ 鈴木委員

博物館では、以前から博物館スクールを学校と連携し実施している。こどもたちが博物館に来て、縄文時代の土器などいろんな資料を触って学習を深めようという事業である。やり方としては、学校からの希望を受け、学芸員が学校と細かな打合せを行い、移動は市バスを利用している。博物館スクールについて、校長会議において年2回、情報提供している。

○ 齊藤委員

東日本大震災では、私自身、早い避難行動をとった。幼少の頃から両親から津波の時は早く逃げることに、津波の怖さを何度も聞かされた記憶がある。こうした親の教育のおかげで、昭和35年のチリ地震津波の時も九死に一生を得る形で助かることができた。最高の防災士は親であると思っている。幼少の頃から防災について語り伝えることが大事である。大船渡津波伝承会としては、こどもたちのために、見えない災いを9分間の防災アニメや吉浜のおゆきという紙芝居を映像化したものを活用し伝えているが、なかなか活用場面が少ない。いつかこの運営協議会で上映して紹介したいと考えている。小学校向けのプログラムを作りたいと考えている。役所や学者にできないことをやりたい。こどもたちに津波の恐怖を伝え、その恐怖こそが避難の根源になると思っている。防災の一助にしたい、なんとか実現したい。

○ 柴山会長

各学校には学習目標があるので、その目標に合う形でプログラムを作ると学校側も取り入れやすくなると思うので、一度、学校の先生方と話してみるのも良い。

○ 伊藤委員

各学校では復興教育に取り組んでいる。新しく赴任してきた教職員の初任者研修のプログラムの中に防災学習館見学を組み入れている。また、地域の方を講師に防災講座なども行っている。

○ 鈴木委員

アーカイブスサイトを見ると、地域によってコンテンツ数に多い少ないがある。

合足津波石や吉浜津波石の情報もないようである。今年、自身で津波記念碑を調査し本にまとめた方がいるので、その本と照らし合わせてアーカイブとして網羅されているか確認するのも良いかと思う。

→ 事務局

登録されていない津波石については、追加する。

このほかにも市内には、浸水水位を表示している建物や津波到達点の碑などがあるので、今後、コンテンツとして追加していければと考えている。

○ 齊藤委員

東日本大震災犠牲者芳名板は一定期間しか設置されないのでは、遺族の方に申し訳ないのではと感じる。できれば常設をお願いしたい。

→ 事務局

芳名板についていろんな議論がなされ、最終的には一定期間の設置で常設しないこととしたが、遺族の方々の心情に配慮した結果である。さまざまな意見があることは承知しているところであり、要検討事項ではあるが、現状、常設することは考えていない。

○ 金野委員

おおふなぼーとは、市観光物産協会が指定管理者として運営しているが、年間 8 万人の来館者、100 件を超えるイベントの対応で手いっぱいの状況である。コーディネート業務について、お金で解決するのか、マンパワーを補充できる方法が他にあるのか、市観光物産協会、庁内関係課と協議していきたい。

○ 柴山会長

マンパワーが足りてない状況で防災学習ネットワークを進めていくことは、防災管理室だけで本当にできるか、あらためて見直していただきたい。

→ 事務局

防災学習ネットワークの業務は多彩であり、小中学校の防災学習にしても学校側とのマッチングが必要であり、業務量は増えていくものと考えている。現状の体制で市観光物産協会に委託することは難しい。新たな人員をどうやって確保するかについて、関係者間で協議し、対応をしっかりと考えていきたい。

○ 柴山会長

少ない予算の中でやとうと考えているかもしれないが、地方創生交付金など国・県の補助制度を活用するなどいろんな方法があると思う。防災学習ネットワークは地方創生につながる取組だと思っているので、幅広い視点を持って進めていただきたい。

○ 佐藤雅俊委員

コーディネート業務を始め、やり方の工夫が議論になるが、それとは違う角度から、ターゲットをもう少しはっきりさせた方が進めやすいことがあるのではと考えている。防災学習ネットワークに求められることとして、いろんな声があり、人間的にも金銭的にもリソースが限られているためにやりかねていることがたくさんある。防災学習ネットワークは本来、内陸部へ二次展開していく計画にもなっているが、基本的には同じ災禍に遭わないよう、市内のこどもたちにターゲットを絞り、その延長として市外の方々にメッセージが発せられ、当市に学びに訪れるといった観点から、市内のこどもたちをターゲットにした取組を工夫して行うことを検討しても良いのではと感じた。

→ 事務局

こどもたちへの伝承に取り組むことは重要と考えている。

市外向けには、今回、県内高校に対し防災学習ネットワークを紹介するDMを送っている。

○ 柴山会長

幼少期に得る知識というのは大事なもので、こどもを持つ若い親世代に防災知識を備えてもらうよう、伝承していくことも重要である。

○ 齊藤委員

大船渡のシンボリックなものとして、太平洋セメントの煙突を利用し、「防災のまち大船渡」のようなフレーズを入れるとかできないものか。東日本大震災では、大船渡は犠牲者が少なかったこともあり、そういった意味では防災のまちとも言える。また、市民の防災意識の向上にもつながる。

○ 柴山会長

民間施設を利用するのは難しいが、街の中にこうしたシンボルがあっても良いと思う。防災学習館の敷地内（赤崎公園）に、消防車両を展示し身近に見てもらうことも良い試みだと思うので検討いただきたい。

○ 柴山会長

今般、津波避難対策検討会議が設置されたが、その会議でのアウトプットを防災学習ネットワークでも取り扱っていかねばならない話だと思っている。

大船渡は物流拠点でもあるので、自動車避難のコンテンツを今後作っていく必要があることを検討会議で共有いただきたい。

#### 4 その他

○ 齊藤委員

陸前高田市独自に防災マイスター制度の取組があるが、当市でもこのような取組があっても良いと思う。

→ 事務局

市としては、自主防災組織を中心に防災意識の向上を図るべく、今年度、立根地区においては風水害を想定した研修会の開催、沿岸地区においては地域ワークショップを開催することで予定している。

○ 柴山会長

夏休み学習としてのスタンプラリーや、アーカイブスに登録している施設を巡ったら、防災マイスターの称号を与えるなど、そうした施設を巡るだけでも防災の知識は身に付く。

○ 柴山会長

別紙資料「防災×観光アドベンチャーゲームあの日防災学習プログラム提案書」により、キャッセン大船渡が中心となり、現在、旅行会社や修学・教育旅行向けに提供している体験プログラムの説明・紹介を行った。

#### 5 閉 会